

8 低学年分科会の成果と課題

《成果》

- 運動の得意な児童、苦手と感じている児童、どの児童にも楽しめる場を設定したり、教具を工夫したりすることで、多くの児童が主体的かつ、楽しんで運動遊びに取り組むことができた。(場の工夫)
- 体をうごかすことが楽しいと感じ、生き生きとした表情で積極的に取り組めた。様々な動きを知った。(指導計画の工夫)
- 「スイミーダンス」を繰り返すことにより、日頃あまり使っていない身体の部分を動かしたり多くの動きを経験したりすることができた。また単元を通して毎時間準備運動として行うことで、一つの動きがスムーズになった。(指導計画の工夫)
- 「スイミーダンス」をお家で練習している話が保護者から聞かれた。コロナウィルス感染拡大防止での新しい生活様式の中でも、身体を動かすいいきっかけ作りとなった。(指導計画の工夫)
- ICT 機器を活用し、友達の良い動きを紹介して全体に共有することで、児童が『動きを理解する』、『動きをイメージする』ことが可能となった。また、動画を見直すことで、教師の適切な評価と指導にもつながった。(ICT の活用)

《課題》

- 毎時間、同じ動作を繰り返し行うことで、着実に身に付けられる反面、慣れることにより動きが自己流になってしまうこともある。ある程度、習得したら、新しい動きを考えて取り入れたり、同じ動きに対してめあてを変えたりするなど変化をつけてよりよくなっていくことが必要と考えた。
- 場の工夫を選択させると、同じ場で同じ動きのみを行ってしまう児童がいる。場に時間でくぎる制限をかけ、最後、自分がやりたいところでもう一度やってみるなど主体的に学べる工夫をしていくことがよりよいのではないかと考えた。

指導講評 日本体育大学准教授 伊藤由美子先生

体操、体づくり運動についてご指導いただき縄を使った運動や色々な部位を伸ばせる体操を実技研修で教えていただいた。

